

第6回町田市中心市街地整備計画策定検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2015 年 5 月 12 日（火）16：30～18：30

場 所 町田市役所 3-1 会議室

【出席者】（敬称略）

■委員

真野洋介、西田司、清水哲夫、村上卓也、三輪律江、野澤滋享、大塚信彰、米増久樹、中村英和（山口拓代理）、上田敬生

■事務局

地区街づくり課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、産業観光課、建設総務課、都市政策課、交通事業推進課、住宅課、公園緑地課、UR都市機構

■関係者 1 名

■傍聴者 なし

【資料】

資料 1 中心市街地整備計画策定の進め方とスケジュール

資料 2 第5回検討委員会意見のまとめ

資料 3 中心市街地整備計画構成（見直し案）

【議事要旨】

- ・ 整備計画の実現に向けた協力体制や整備計画策定後のまちづくりの進め方等について各委員が提言を行った。

【会議内容】

1 開会挨拶

町田市都市づくり部地区街づくり課長から挨拶

2 議事

- （1）検討の進め方と昨年度（第1～5回検討委員会）の振り返り
- （2）中心市街地整備計画の実現に向けた協力体制
- （3）新たな賑わいづくり検討部会の報告
- （4）中心市街地整備計画の検討

- （1）について、委員長から説明
- （2）について、地区街づくり課から説明
- （3）について、副委員長から説明
- （4）について、地区街づくり課から説明

3 その他

「まちだニューパラダイム 2030 年に向けた町田の転換」冊子について、町田市未来づくり研究所から報告

■ 意見等

(委員長)

- ・ 中心市街地活性化協議会（以下「中活協」）を中心としながら、市と計画案をキャッチボールしたり、プロジェクト（以下「P J」）チームを作り走らせていくという体制について、中活協としての意見を聞きたい。

(委員)

- ・ 中活協も世代交代の必要性を強く感じている所であり、中活協の若手ワーキンググループからも同じ提言があがっている。行政の新しい整備計画においては、まちを利用する人々の意見を取り入れられれば良いと思っている。そのために一緒に活動することについては、中対協や中町、森野の商店会など現在の組織からはほぼ了解をもらっており、今は大型店に折衝している所。最終的には町内会などにも参加してもらい、商業者だけではなく様々な方が入った上で新しい町田をつくっていくという形にしていきたい。その中で、本委員会の学識の先生方にもアドバイス等をいただきながら進めていきたいと考えている。

(委員)

- ・ まちづくり公社としても、今後は外部の方の意見を頂く場などを作りながら進めていかねばならない。

(委員)

- ・ 市やまちづくり公社、商工会議所などの関係者がついている限りは、しっかりとした意見調整ができるのではないかな。商店街組織は任意団体のため、商店街組織のみでは意見調整等が非常に難しい。

(委員)

- ・ P J は、誰に参画させるか、どのように声をかけるかが一番のポイントになる。
- ・ P J 9 「原町田大通り賑わいと憩いの空間形成」について、各プロジェクトの中でも最初にやりやすい場所であり、やるべきである。

(委員)

- ・ 何のために誰がどうしてやるかというものがないと中々実施は難しいだろう。
P J 9 はリーディングプロジェクトとしてやってみると良いと思うが、残り 9 つの P J のうちで並行してやらないといけないものがあるかどうか考慮しなければならない。特に交通の検討は忘れてはならないだろう。

(委員)

- ・ P J 9 については中活協の若手を中心に声かけられているが、他の P J の中で、先行して組織なりチームなりでやっていくという認識で良いか。また、先行して実証実験を部会を中心にやってみるということか。

(副委員長)

- ・ その通りである。

(委員長)

- ・ P J によってはイメージ図ありきなものや、先に体制づくりがないとできないものなど異なるが、原町田大通りの場合は、既に検討が進んでいる主体をベースに実験をしながらやっていくというものである。今は原町田大通りの例が出ているが、これ一つだけをやっていくということではない。

(委員)

- ・整備計画を作りながら一部実証実験をやっていくことによって、市民に対して広報的な効果があり、興味を示す方が出てくるかもしれない。非常に意味のあることだと思う。

(委員)

- ・スライドP19から、今後の方向性が非常に明確になったと感じている。
- ・商業や文化、暮らしなどに加え、「働き方」を打ち出しているが、働き口があるかというところで、「産業の集積」の視点があつたほうがよい。昼間人口が増加するとまちが活性化する。
- ・PJ4「広域交通拠点の整備」をどのように進めていくか、役割分担の具体的なイメージがつかない。

(委員)

- ・いくつかのPJについて、事業者として関わらせてもらうところがあるかと思うが、風呂敷を広げすぎると関係者が多くなってしまい、スピード感が失われてしまうことがあるので、コントロールのしかたが重要である。
- ・回遊性の持たせ方やどういった軸を設けていくのがいいのかを、交通事業者としては各PJと連携を取りながら都度協議させて頂きたい。
- ・マーケティングという点では、例えば鴨居駅改札前で、地元の製品を使ったマルシェを開いたりもしているが、最近は画一的な商品よりも、地域の特色があるものを嗜好するという顧客の傾向があり、JR町田駅の券売機横のコーヒーショップも地産地消を取り入れている。

(委員長)

- ・雇用を生み出すという視点は非常に大事である。今までの話はサービスや環境を作って質を高めるという点に特化していたが、サービス・雇用・税収は三位一体であり、サービスを高めようとしても、事業が起きないと高まらないものである。計画策定に当たってはもっと商業や事業をおこす部署の視点も入れながら柱を立てたほうがよい。
- ・町田を再び再構築するというのを、PJ10「官民連携まちづくり」のみで磨けるのか。PJという言い方ではなく、10個それぞれの価値を磨く形ができないものか。各PJの担当者が責任をもって磨き上げれば上手くいくのか、10個とは別に磨く価値を高めたり、その価値を高めるための評価やアイデア出しをすることも必要なのかもしれない。そのプロデューサー役を誰がやるのが課題である。

(委員)

- ・スライドP32に「飲食店オーナー」とあるが、飲食店は新規参画者が増えてきており、採算が十分取れているようだが、小売業は経営が成り立たず新規参画が難しい現状があるため、そこを支援できる仕掛けを作ってはどうか。かつてボックスショップを運営していた方から、「町田はローカルブランドの発信拠点となりうる」という提言をもらったことがあり、そのようなことがあってもよい。「飲食店」に限らず、若手商業者とするといいのではないか。
- ・戦後地方から東京へ来た人には、地方の第一次産業を担ったDNAが根底に残っている。町田には、そういった人が集積しているので、「町田の名物は人である」と言えるのではないかな。その理念を整備計画の中に入れられると良い。

(委員)

- ・商店街を見ると、平日は高齢者、休日は若者が多い。歩く量で見ると平日の方が多く、高齢者の回遊性を考えていく必要がある。
- ・バリアフリーの話がよく出るが、今の中心市街地はあれ以上バリアフリーにしたらかえって危ないのではと思うくらい整備されている。憩いの場が少ないという意見もあるが、ぼつぼ町田にかなり整備されており、通りにパラソルなど出されてしまうとかえって歩きにくくなる。利

用者の立場から言うと、今の中心市街地をあまりいじらない方が良いのではないかな。また、いかに商店街を利用してもらうかが今後の課題である。

- ・ 芹ヶ谷公園と中心市街地は回遊性において中々結び付きにくく、どうしたら改善できるかということだが、解決策は分からない。芹ヶ谷公園に行きたくなるようなものを作ったとしても、そこで遊ぶ魅力はほとんどなく、極端な話、劇場や映画館などの整備が必要ではないかな。
- ・ シバヒロについては、当初地元は大反対していたが、商店会の会長に聞いたところ、イベント等により人の流れが増えて少し安心しているとのことであった。5, 10 年後のスパンでまた方策を考えることとなっているので、もう少しグレードアップしていけば人の流れも変わってくるのではないかな。

(委員)

- ・ 各 P J について、一つ一つのレシピシートのようなものにし、色々なアイデアが出てきたときにそれを加えられる形にすると、受け手がより分かりやすくなるのではないかな。
- ・ 中活協の負担が非常に大きいように感じる。プロジェクトが動いてくると、ステークホルダーを回って調整を行いそれを行政に伝えるなど大変な仕事になるはず。大事なことはお金の回し方と人材育成であるので、そこがうまく回る仕組みを市や事業者、バックアップする団体が考えていかなければならない。
- ・ なぜ中活協に入ってもらえるのか、考え方を整理しておく必要がある。
- ・ 生産活動を行うことはまちの中にとって非常に重要なことである。特に高齢者が働くことによって社会貢献ができ、自分の存在意義が出てやる気が高まる。例えば千葉県柏市の豊四季台団地では、高齢者を働かせるための色々な P J を行っている。町田は若い人も多く集まるため、オフィス床だけでない働く場を設けることも重要である。

(委員)

- ・ 中心市街地に暮らし続けるという視点が欠けている。暮らしが多様になる、暮らしが楽しくなるという表現となっているが、職住近接や次世代へつなげるという話もあり、町田を選んで終のすみかにするというような発想もあったほうがよい。
- ・ スライド P 27 について、以前子どもセンターの企画を行っていた際、将来的にビジネスをやるという方向性が出ることに備え、カフェ的な機能をセンターに持たせたらどうかという議論を行った。将来的にはそういった場でのビジネスや、学校も多機能になる可能性があり、どこに置くかは別として、概念的には既存資源の中に入れておいた方がよいのではないかな。
- ・ スライド P 28 は、大人しか見ていないが、次の担い手には事業者の二代目・三代目よりも住み続ける人がなっていく。そういう人たちが活躍する場を出しておかないと他人事になってしまう。
- ・ まちづくりの進め方のイメージで、利用者が主体的に参加するイメージが見えない。主体的に参加したい人たちがいたとして、どのように入っていけばよいか疎外感があるように見える。
- ・ スライド P 32～35 の次の進め方イメージについて、中活協との協力となっているが、中活協だと商店街活性化がメインに見えてしまう。例えば中高生がイベントをやりたいとなった時に、中活協へどのような形で相談すれば良いのか。住民や若者が「町田でこんなことができる」と感じるためのところが薄い。
- ・ 行政としてどこまでできるかという覚悟を示す必要がある。行政が主導しなければならないが、行政だけではできないのでみんなでやろうという進め方のスタンスのものもあってもよいのではないかな。

(委員長)

- ・ 地方都市の中心市街地の場合、若者がチャレンジできるフィールドにしようという動きが強まっている。しかしながら町田の場合、若者が沢山いるためにそれが当たり前となっていて、主体になってもらうという発想がやや乏しい。資源となる若者が沢山いるので、主体となってチ

チャレンジできる環境が必要ではないか。石巻にも市役所の中に高校生が運営するカフェがある。ただそういった運営はNPOや寄付金等がリードしている面があり、単に行政が頑張るからできるというものではないので、難しい所でもある。

(委員)

- ・そういった話になると、福祉系や学校教育系の部署も巻き込んでおかなければならない。

(委員)

- ・中活協というと商業系中心の感じがあり、住居や交通、大型店舗等の話になった時に、それだけでは不十分ではと感じる。進め方イメージのやり方では対応できないPJもあるが、どのPJも進め方イメージを考えておくべきである。
- ・各PJは全て中活協で対応するのか、市として何をするのかが分かりにくい。特に交通のような公的な話はどうしても市の役割が大きいので、落とさずに入れてもらいたい。
- ・単に道しるべというだけでなく、具体的な目標と手段が必要なPJもあるので、これとうまくすり合わせていく工夫が必要だろう。
- ・あちこちでPJを進行させる場合、取りまとめをしていく者が必要だが、一体誰がやるのか。総合プロデューサーは誰か。多くの場合、地元にもそのような人材がおらず、コンサルタントがどこまでできるかということもある。誰が担っていくのか大きな課題である。
- ・スライドP19の内容は良いが、これが崩れると後がすべて崩れることになる。最初に客観的な情報を入れておくことを徹底しておかないと、答えありきで計画が進んでいる印象を受けかねないことになる。

(委員)

- ・特にハード整備については行政の覚悟を示してほしい。それがないとできない事業もある。合意形成など、それをフォローするのが中活協の役割だと思っている。
中活協が商業ベースという点について、私は昔PTAの会長をやったことがあり、子どもセンターの話についても関わりがある。行政のやる場所はやるという覚悟のあるところで、中活協もボランティアとして頑張っていきたい。

(委員)

- ・中活協は今は都や市からの補助金を使ってイベントを行っているが、それが本当に活性化や販促に繋がるのかを精査し、お金の使い方も再考しなければならない。
- ・子どもを含めた社会の循環を、まちなかでどうやって作るかは非常に大切である。中心市街地にマンションが増えると子供の数も増えるため、地域自体を作っていくことを考えていかねばならない。
- ・この計画を誰がやるのか中々見えない状態であるが、地元と行政が組んでやっていかなければいけないと考えており、頑張っていきたい。

(副委員長)

- ・中活協の良い所は、まちづくり公社が入っていることで、まちをどうしていくかを考えている点である。普通は商工会議所だけで動くものだが、一緒に入ることにより、非常にバランスが取れている。今後も一緒に議論してやっていけると良い。

以 上